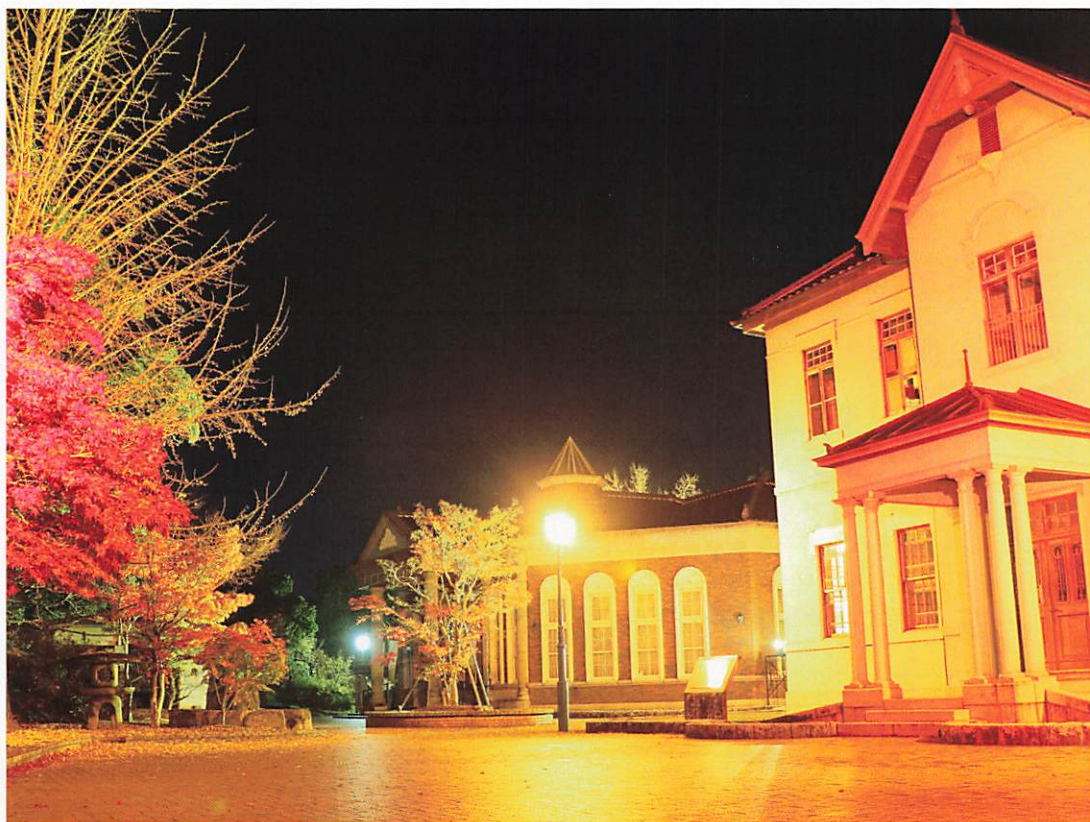


光市医師会報

No.467

(令和7年 秋号)



写真提供：光市

光市医師会

<https://bit.ly/3P3IZm1>

目次

光市医師会報 No. 467 (令和7年 秋号)

1. 表紙	
2. 学術講演会	1
令和7年度第3回学術講演会	1
令和7年度第4回学術講演会	1
2. 納涼懇親会	2
3. 入会会員	3
4. 会員の異動	4
5. 理事会報告	5
6. 月例会報告	22
7. 休日診療所	22
8. これからの行事予定	23
9. 緑友会コンペ	23
10. あとがき	24

令和7年度 第3回
光市医師会学術講演会

2025年8月26日(火)
18:50～20:00
光商工会館2階 大会議室

製品紹介 18:50～19:00
選択的SGLT2阻害剤-2型糖尿病・慢性心不全・慢性腎臓病治療剤-「ジャディアンス錠」
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

特別講演 19:00～20:00
「TAVIから広がるSHD（構造的心疾患）治療の可能性 ～心不全診療ガイドライン2025改訂を踏まえて～」

座長 光市立光総合病院
副院長 中村 安真 先生

演者 徳山中央病院 循環器内科
医長 松山 哲也 先生

令和7年度 第4回
光市医師会学術講演会

2025年9月30日(火)
18:50～20:00
光商工会館2階 大会議室

製品紹介 18:50～19:00
「ベオーバ錠50mg」
キッセイ薬品工業株式会社

特別講演 19:00～20:00
「過活動膀胱について」

座長 ひかり腎泌尿器科クリニック
院長 井上 亮 先生

演者 光市立光総合病院 泌尿器科
部長 赤尾 淳平 先生

令和7年度 光市医師会納涼懇親会

令和7年7月17日木曜日、昨年と同じ光市民ホール内の「カフェ・アゴラ」で今年度の納涼懇親会を開催しました。総勢26名にご来場頂き、約2時間の間昔話や多彩な話題で会話が花が咲いていました。

来年度も同時期の開催を予定しています。ご参加をお待ちしております。（広田 修）



新入会員紹介



みちがみ病院小児科
藤田 京子 先生

みちがみ病院小児科の藤田京子です。

1977年に山口大学医学部を卒業し、山口大学附属病院と関連病院を経て、平成3年から平成26年まで徳山中央病院小児科に勤務していました。平成26年に徳山中央病院を退職後、みちがみ病院小児科に勤務しています。徳山中央病院を退職した際、医師会も辞めていたことに気付かず（医師会の事は徳山中央病院にすべて委託しておりましたので）、今回、医師賠償責任保険関連で山口県医師会の方からご指摘を受け、すぐに光市医師会に入会させていただきました。

趣味はいろいろあり、主に「読書」と「英会話」ですが、やりたい事が多すぎて困っている今日この頃です。

また、にわかファンとからかわれるのですが、大谷翔平も密かに応援していて、いつもパワーをもらっています。

みちがみ病院では、外来診療は基本的に午前中のみとさせていただいており、近隣の先生方にはご迷惑をおかけしていることも多々あるのではないかと危惧しております。今後、できる範囲でやっていこうと思っています。よろしくお願いたします。



大田病院
平田 真由美 先生

2018年6月から大田病院の内科医として勤務しております平田真由美と申します。

1995年に山口大学を卒業し神経内科に入局し、山口リハビリテーション病院を経て、山口若宮病院で内科医として長年勤務しました。現在は大田病院で精神症状のある患者さんの内科疾患の診療を担当しております。高齢の患者さんが年々増えており身体的合併症を抱える方が多く周辺の病院に大変お世話になっておりいつも感謝しております。

私生活では子供二人の子育てがほとんど終わりかけており、趣味のクラシックバレエやピラティスで体を鍛える事に熱中し充実した毎日を送っております。

これからも地域医療に貢献出来るよう精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

入会会員

7月1日付

B会員

藤田 京子 先生 (みちがみ病院)

8月18日付

B会員

平田 真由美 先生 (大田病院)

9月4日付

A会員

高橋 智聡 先生 (光内科消化器科)

退会会員

8月6日付

A会員

藤村 朴 先生 (大田病院)

8月23日付

A会員

高橋 建次 先生 (光内科消化器科)

理事会報告

令和7年度7月光市医師会定例理事会

日時 令和7年7月8日（火）午後7時00分より午後8時00分

場所 光商工会館 光市医師会 事務局

出席 井上祐介会長、廣田 修副会長、田村健司理事、秋吉宏規理事、
松島寛理事、河内山敬二理事、
守友康則監事、藤田敏明監事、前田一彦理事、北川博之理事

欠席 谷川幸治理事

議題:

I. 報告事項

1. 郡市医師会看護学校（院）担当理事・教務主任合同協議会 （6/5 松島理事）

協議事項

1. 中四九地区医師会看護学校協議会の報告
防府看護専門学校が主管で開催
第55会中四九地区医師会看護学校協議会
令和6年8月18日（日） ルルス防府多目的ホール
テーマ：リカレント教育のすすめ
2. 令和7年度医師会立看護師養成所会議
都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会（令和7年5月16日）の報告
詳細は山口県医師会報 令和7年6月号に掲載
3. 看護学校（院）の運営状況について
新たに宇部が募集中止された。
18歳人口の減少、大学看護科志向により受験者数、入学者数の減少が続いており、定員割れしている。
充足率は5割程度
4. 山口県の取り組みについて
学資金の貸与 看護教員養成講習事業 プレナース発掘事業など
看護職員確保対策事業として、「養成確保」「離職防止・再就業支援」「資質向上」を柱とした看護職員確保対策を実施する。
修学資金の貸与 看護教員養成講習事業 プレナース発掘事業
5. 山口県医師会の取り組みについて
 - ・看護職員養成施設への助成
 - ・看護学校（院）入学募集広報活動への支援
6. 郡市医師会、看護学校（院）からの意見要望

- ・学生数減少により、運営が厳しい。引き続きの財政支援お願いする。
- ・人材育成及び人的支援が必要
- ・学生募集に関して、地域のお祭りに参加、SNSを使った募集など

2. 山口県医師会定例代議員会 (6/12 井上会長、廣田副会長)

(1) 令和6年度事業報告 抜粋 詳細は、山口県医師会報を参照

①生涯教育

- ・第106回山口県医学会総会（令和6年6月9日） 徳山医師会引き受け
- ・生涯教育セミナー 4回開催
- ・山口大学医師会主催で体験学習
「明日から役立つ呼吸器疾患の日常診療スキル」
- ・山口県医学会誌 第59号発行

②医療・介護保険

- ・社保国保審査委員合同協議会で会員からの問題や要望点、件案事項を協議
- ・個別指導、新規個別指導に県医師会から立会をした
- ・オレンジドクター制度について会員へ周知を行なった
- ・労災・自賠責に関して、公務災害の指定医療機関の集合契約による直接支払い制度を創設した

③地域医療

- ・令和6年3月に第8次医療計画が策定されたのに伴い、地域医療計画委員会を開催
- ・地域医療構想調整会議では真直状況の検証、紹介重点医療機関の選定等を協議した
- ・乳幼児の保護者を対象とした啓発講習会及び小児科を専門としない医師を対象とした地域医師研修会を開催
- ・JMATチームを結成（27チーム、197名 令和7年3月末）
- ・地域包括ケアシステムへの取り組みに助成

④地域保健

- ・広域予防接種の標準料金案の設定と接種医療機関の取り纏めを行なった
- ・県及び市町に対して、ムンプスワクチン、小児のFluワクチン、就学前DPTワクチン及びポリオワクチン、B型肝炎定期接種の対象外年齢の小児に対する助成を要望
- ・BEAMS（医療機関向けの虐待対応プログラム）stage I、IIを初開催
- ・山口県糖尿病療養指導士講習会を4回開催し、新規合格者98名、全体で資格保有者は890名となった
- ・平日夜間や休日にかん検診を行う医療機関に助成を行なった
- ・喫煙防止教育の資料を県内の小中学校へ配布

- 受動喫煙防止のため「イエローグリーンキャンペーン」を実施
- ・ COPD対策として「オール山口で取り組むCOPD対策研修会を企画
- ・ 産業医研修会を18回実施

⑤ 広報・情報

- ・ 県民に対して記者会見を提供
山口県の時間外救急と医師の働き方改革について
HPVワクチンキャッチアップ公費接種について
能登半島地震でのJMATやまぐちの活動について
- ・ 山口県医師会報 発行
- ・ 花粉情報を県へ提供
- ・ 県民公開講座「花粉症対策セミナー」を開催

⑥ 医事法制

- ・ 令和6年度医療紛争発生受付件数 14件（日医付託は2件）
- ・ 令和6年「診療情報提供推進窓口」受付件数 51件
相談 35件、苦情 16件

⑦ 勤務医・女性医師対策

- ・ 勤務医ニュース第33号、34号を発刊した
- ・ 「救急医療の医師の負担軽減」をテーマに座談会を開催
（内容は勤務医ニュース34号に掲載）
- ・ 「画像診断におけるAI利用の現在と課題」をテーマとした講演会を開催
- ・ 男女共同参画部会で「ダイバーシティ推進を目指して」をテーマに講演会を開催
「ダイバーシティの推進と女性医師のキャリア支援」
京都大学医学教育・国際化推進センター
片岡仁美 教授

⑧ 医業について

- ・ 山口県の「医業継承支援事業」の運営委託を受け、相談窓口と各種業務を行なった
- ・ 山口県医業継承推進連絡会議で今後も事業継承を継続
- ・ 医療廃棄物取り扱いに関する情報提供を行なった

(2) 議決事項

- ① 令和6年度 決算
- ② 令和7年度 会員年会費
- ③ 令和7年度 県医師会入会金
- ④ 令和7年度 県医師会役員報酬

原案通り承認

詳細は山口県医師会報 8月号を参照

3. 第1回光市健康づくり推進計画市民協議会 (6/26 井上会長)
第3次推進計画:令和8年度を初年度に令和19年度までの12年間
本会議で素案が示され了承された。

第3次計画の目指す姿:みんな元気で ころろゆったり 笑顔あふれる 大好きなま
ち光

基本理念:健康寿命の延伸で豊かな人生を

基本目標:

- I 個人の行動と健康状態の改善 (セルフケア)
- II 社会環境の質の向上
- III ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

以上を報告した

II. 協議・承認事項

- 1. 入会会員について (井上会長)
急な事情につき医師会長の事前承認によりみちがみ病院、光総合病院から各1名ず
つの計2名が承認された
- 2. 職員夏季賞与について (廣田副会長)
例年通りで承認された
- 3. 理事の中途退任要望について (松島理事)
本人の体調理由により辞任希望も、留保された
- 4. 納涼懇親会について (廣田副会長)
7/17の開催日時を確認了承した
- 5. 8月の理事会について (井上会長)
8月理事会を第一火曜日に変更

以上を協議・承認した

令和7年度8月光市医師会定例理事会

日時 令和7年8月5日(火)午後7時00分より午後8時00分

場所 光市医師会事務局

出席 井上祐介会長、廣田 修副会長、田村健司理事、秋吉宏規理事、松島寛理事、
前田一彦理事、谷川幸治理事、河内山敬二理事、守友康則監事、藤田敏明監事

欠席 北川博之理事

議題:

I. 報告事項

1. 光市健康づくり推進協議会

(7/10 井上会長 廣田副会長)

議題1 令和6年度光市保健衛生事業報告について

【第1 健康増進事業の取り組み】

光市健康づくり推進計画（平成28年3月策定、計画期間:平成28年度~令和7年度）の実現に向け、関係者や関係機関と連携を図り、計画に基づく各種事業に取り組んだ。

また、自殺対策基本法に基づき、光市自殺対策計画（令和2年3月策定、計画期間:令和2~7年度）のもと、関係機関と連携を図り、計画に基づく各種事業に取り組んだ。光市自殺対策協議会を1回開催し、自殺対策に関する協議を行った。

【第2 母子保健の取り組み】

児童福祉法改正に伴い、令和6年4月に母子保健と児童福祉の相談部門を一体化した「こども家庭センターきゅっと」を開設し、すべての妊産婦と子育て世帯、こどもへの支援体制の強化と、保健、福祉、医療、教育等関係分野との連携強化を図った。

令和6年度の妊娠届け出数は229件（令和5年度238件）、出生数は238人（令和5年度240人）であった。

【第3 歯科保健の取り組み】

妊娠期から高齢者まで、生涯を通じた歯科保健の向上に取り組んだ。乳幼児を対象に、あいぱーく光で歯の健康相談を、市内保育所、幼稚園、認定こども園で、歯科指導を実施した。また妊婦歯科個別健康診査（妊娠期間中の1回）、親子でハッピー歯科健康診査（1歳6か月児歯科健診対象期間の保護者を対象に1回）を歯科医療機関へ委託し実施した。

【第4 感染症予防（予防接種）】

1 定期予防接種

感染予防、発症予防、重症化予防、感染症のまん延予防等を目的として、」予防接種法に基づく各種定期予防接種を実施した。

また、市広報での啓発や、医療機関、保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校等関係機関の協力を得て周知・啓発に努めた。

日本脳炎予防接種、麻しん風しん2期予防接種、二種混合予防接種、ヒトパピローマウイルス感染症予防接種、水痘予防接種については、未接種者に個別勧奨を行った。

【第5 組織との連携】

1. 母子保健推進協議会

母子保健推進員52人で組織され、母児保健に関する訪問活動を中心に、活動を行った。母子の訪問件数は、乳幼児訪問2,303件、妊産婦訪問270件だった。会員の資質向上のための研修会を8回実施し、延べ281人が参加した。

2. 食生活改善推進協議会

食生活改善推進員65人で組織され、教室の開催や対話・訪問活動等を行った。若い世代への健康教室を6回、延べ153人に対して、対話・訪問活動など個別への普及推進活動を9,848回、延べ29,740人に対して行った。一般健康教室及び栄養調理教室を介護保険特別会計で実施、計36回、延べ547人に対して行った。会員の資質向上のための研修会を5回実施した。食生活改善推進員養成講座を実施し6人が受講した。

【第6 救急医療・地域医療体制】

令和6年度は73日開所し、休日等における一次医療の確保に努めた。

牛島診療所は年間44日（荒天により6日休診）、週1日、土曜日に診療を行った。

二次救急医療体制については、周南3市で周南地域医療対策協議会を設置し、休日は救急指定5医療機関、夜間は3医療機関の病院群輪番制で実施した。

議題2 令和7年度光市保健衛生事業計画について。

今年度より組織の再編成により、健康増進課に健康づくり部門、こども家庭課に母子保健部門が設置されることになった。

今年度の重点施策

1. 光市健康づくり推進計画の策定と推進

令和7年度まで第2次計画の推進を図るとともに8年度開始の第3次計画策定を行う。

2. 光市自殺対策計画の策定と推進

令和元年度に策定した光市自殺対策計画の推進を図るとともに令和8年3月に策定予定である第2次計画に向けて光市自殺対策協議会にて意見交換を行う。

3. 健康増進事業及びがん検診事業

20~39歳女性及び40歳以上の男女を対象に、健診案内の個別通知や健診開始年齢の人の自己負担無料化、胃がん検診の早期割引等を行うことで、検診の必要性の普及啓発、受診率向上に取り組み、がんの早期発見・早期対応を図る。従来のみしめ歯周病検診を見直し、歯と口腔粘膜の健診を新に実施する。

2. 光市休日診療所運営協議会報告

(7/10 前田理事)

1. 光市休日診療所の運営状況について

• 設備更新

経年劣化に伴い、レントゲン画像読取装置を昨年12月に、高圧蒸気滅菌機を本年2月に、自動分割分包機を本年6月にそれぞれ更新した。

• 令和6年度収支状況と利用実績

歳入：合計2,625万2,742円（前年度比約495万円減）

診療報酬2,620万4,272円（前年度比約494万円減、受診患者総数の減少が要因）

歳出：合計3,278万2,524円（前年度比約291万円増）

令和5年10月から事務員の市の直接雇用化による報償費の増加（約69万円増）

自動血球計数装置の修繕による事業費の増加（約44万円増）

X線画像読取装置や高圧蒸気滅菌器などの購入による備品購入費の増加（約318万円増）

収支：652万9,782円のマイナス

令和6年度利用状況:患者総数は1,982人（令和5年度比122人減）

年齢別では、16歳から69歳が62%と最多、二次搬送者は19人

- 小児救急医療の現状

周南こどもQQの令和6年度実績

一次救急の休日総患者数2,679人、夜間2,668人、光市民の患者割合は11.3%（昨年度より0.5ポイント増）

小児の二次救急（徳山中央病院）

休日総患者数234人、夜間1,402人、光市民の患者割合は15.3%（前年度より1.1ポイント減）

- 新型コロナウイルス・インフルエンザ検査

最も検査数が多かったのは1月の358件、次いで12月の215件

陽性者が最も多かった月は、新型コロナウイルス感染症が7月の63人、インフルエンザが1月の220人

- 令和7年度予算報告

収入：診療報酬、診断書等手数料等で2,411万3千円の見込み

支出：3,189万5千円（看護師及び医療事務の報償費534万7千円、医薬材料費363万円、委託料2,054万6千円など）の見込み

支出合計は令和6年度決算より約89万円増加しており、その主な要因は人件費の高騰。

2. 令和6年度救急業務実施状況の報告

- 救急業務実施状況

令和6年の救急出動件数は3,064件、搬送人数は2,688人と、いずれも過去最多。要因は高齢化に伴う基礎疾患の増加と分析。市民の約18人に1人が救急搬送された計算。

出動事故種別では急病が全体の65.3%を占め、一般負傷が続く。高齢者の一般負傷の多くは、転倒が原因。

救急搬送では例年若年者が最も多いが、令和5年、令和6年と高齢化に伴う基礎疾患の増加により、中等症患者が増加。休日診療所から他の医療機関への転院搬送が4件。

・救急医療電話相談#7119と救急車の最新仕様

救急車の適正利用に向けた広報活動の結果、救急医療電話相談#7119の利用者数が令和6年にかなり増加。

救急車が1台新しくなり、サイレン音が夜間等に配慮した音になった。

休日診療所の会計システム更新・医薬品管理について

1. 医事会計システムの更新

現在使用中の医事会計システム端末は今年度が更新年であるため、入札でシステム変更の予定。引き続きオルカでの運用が想定されており、大幅な変更は予定されていない。

2. 带状疱疹治療薬（アメンアリーフ）の新規発注

腎機能障害の患者用にアメンアリーフがあったほうが良いのではという指摘が、皮膚科に勤務する看護師から出され、ひとまず1箱14錠入りを発注し様子を見ることとなった。

薬価は6錠で6,265円、14錠で14,619円。

20%ブドウ糖注射液20mlの今後の必要性

7月期限の未開封在庫がある20%ブドウ糖注射液20mlについて、20%はこれまで一度も使用されたことがないことから、過去の使用実績（3年前のデータを含む）を確認し、発注を検討する。

→他にブドウ糖液在庫がないことから、20%ブドウ糖注射液を最小単位で発注。

3. 扇風機・霧吹き等の備品確認

熱中症治療用として、扇風機と霧吹きについて備品を確認しておく。

3. 医師国民健康保険組合通常組合会 (7/17 井上会長)

承認第1号 令和6年度山口県医師国民健康保険組合事業報告について

1. 被保険者 合計3,422人から3,281人へ減少 甲種、甲種家族、乙種、乙種家族、いずれも減っている。75歳以上となり広域連合へ移る、子の独立、職員が協会けんぽに移る、などが原因

2. 保険給付 件数が46,201件から44,557件に減り、保険者負担分が617,052,371円から534,121,187円に減少した。高額療養費負担分も552件から379件に減り、保険者負担分が254,322,859円から176,862,639円に減っている。

3. 保健事業

4. から10. 各種会議の実施、参加報告

議案第1号 令和6年度山口県医師国民健康保険組合歳入歳出決算について

歳入の部 予算額 1,476,311,000円 決算額 1,450,876,560円

歳出の部 予算額 1,476,311,000円 決算額 1,097,764,360円

歳入歳出差引額 353,112,200円

- 議案第2号 令和6年度山口県医師国民健康保険組合歳計剰余金の処分について
翌年度繰越金とする
- 議案第3号 山口県医師国民健康保険組合規約の一部改正について
第16条第3項、第16条の2、第16条の3を削除（新型コロナウイルス感染症に感染した被保険者等の傷病手当金関連）
令和7年7月17日から施行
- 議案第4号 山口県医師国民健康保険組合傷病手当金支給規程の一部改正について
第5条を削除
（新型コロナウイルス感染症に感染した被保険者等の傷病手当金関連）
令和7年7月17日から施行

4. 郡市医師会小児救急医療担当理事協議会 (7/24 松島理事)
協議事項

1. 令和6年度小児救急関係事業報告について

- ・小児救急医療啓発事業講習会（資料1-1）
- ・小児救急医療地域医師研修事業講習会（資料1-2）
- ・各郡市医師会で開催された
- ・光市は周南小児科医会として共催

2. 令和7年度小児救急関係事業について

I 小児救急医療地域医師研修事業（継続）

- ・小児初期医療提供体制の確保を図るため、小児科を専門としない医師が小児のプライマリケアを行えるよう研修事業を実施する。
- ・医療圏域ごとに実施
- ・県予算額 1594千円

II 小児救急医療啓発事業（継続）

- ・乳幼児を持つ保護者に対して、小児の病気の知識等に関する講習会
- ・不要不急の受診を減少させ、病院勤務医の負担の軽減と真に急を要する患者への医療資源の集中を図る。
- ・県予算額 985千円

III 小児救急医療拠点病院運営事業（継続）

- ・二次医療圏を対象として、休日及び夜間における入院治療を必要とする小児の重症救急患者の医療を確保する。
- ・実施機関 済生会下関総合病院 総合病院山口赤十字病院 徳山中央病院 岩国医療センター
- ・県予算額 138681千円

IV 小児救急医療確保対策事業（継続）

- ・小児救急医療体制が整備されていない医療圏において、休日や夜間も小児二次救急医療が提供できる体制を整備する。

- ・実施機関 周東総合病院 長門総合病院
 - ・県予算額 2366千円
- V 地域小児救命救急センター整備事業（継続）
- ・重篤な小児患者に対し、より高い水準の小児救命救急医療を提供できるよう、地域小児救命救急センターの整備を支援する。
 - ・実施機関 山口大学医学部附属病院
 - ・県予算額 23209千円
- VI 小児救急医療電話相談事業（継続）
- ・小児患者の保護者からの電話相談に、相談員が対応することで保護者の不安解消や適切な受診促進に寄与する。
- 《実施時間》19時から翌朝8時まで毎日実施
- 《回線数》2回線
- 《相談員》看護師及び小児科医
- 《相談内容》子どもの急病、疾患等に関すること
- ・実施主体 山口県（民間業者に業務委託）R7委託先:株式会社法研
 - ・県予算額 12923千円
3. 山口県小児急医療電話相談事業（＃8000）について
令和6年度 山口県小児救急医療電話相談事業実績の報告（資料2）

5. 郡市医師会救急医療担当理事協議会

(7/31 前田理事)

1. 本県の救急搬送の現況について

- ・令和6年の救急出動件数・搬送人員は過去最多。
- ・搬送者のうち高齢者の割合は70.9%と全国（61.6%）より高い。
- ・新型コロナの5類移行により、現場到着時間と病院収容時間は短縮された。
- ・救急救命士の乗車率は100%。
- ・女性へのAED使用について、セクハラ懸念がトピックとなっているが、下着は外さず「ずらして」装着すればよく、ワイヤーのスパークの心配はない。むしろ、ためらいによる装着率の低下が社会復帰率の男女差につながっているため、人命救助を優先する社会的認識の向上が重要である。

2. ドクターヘリの出動状況

- ・2011年1月から2025年3月末まで、出動3,885件。
- ・消防本部別出動件数は萩市が最多の589件。
- ・運行会社の整備士不足問題について、山口県が利用するエアロトヨタ社では問題は発生していない（他県では人員不足で出動できないことがある）。

3. 救急勤務医支援事業について

- ・令和6年度に開始された、救急医療に従事する医師の処遇改善事業。
- ・宿日直医師が診察した患者が入院した場合、患者1人あたり3,000円の手当が支給される。

- ・県が1/3を助成する。今年度の予算は2,800万円（2万8千件分）。
 - ・8月に希望調査、12月から補助金申請を受け付け、翌年4月に補助金を支払うスケジュール。
4. 休日夜間急患センター及び在宅当番医に関する調査について
- ・防府市の一次救急の現状と課題
医師高齢化と診療所減少により一次救急が機能低下。軽症者が三次救急へ集中している現状を踏まえ、夜間オンライン診療を試験導入。
令和6年10月から、木曜日から日曜日の週4日、18:45から21:45まで夜間オンライン診療を試験的に導入。診療は、市内の高齢医師と、市にゆかりのある東京在住の医師（ふるさと診療ドクター）が担当。看護師が事前にトリアージを行う。市民への周知不足から利用は少数に留まるが、来年度からは毎日実施する予定。
 - ・岩国市の小児医療の現状と課題
岩国市も軽症の小児救急患者が国立病院に集中（約80%以上）し、医療の偏在が深刻化している。地域の開業医の高齢化も進み、小児医療体制の維持が困難になっていることから、来院型小児科オンライン診療の導入を開始（2025年4月から）。患者が岩国市医師会病院に来院し、看護師の支援のもとで遠隔地の医師の診察を受ける。これにより、対面に近い安心感の高い診療を提供している。看護師が常に付き添い、遠隔聴診器やカメラを活用し、対面に近い精度の診察を目指す。医師は岩国医師会病院との雇用契約を結び、診療報酬や診療録は全て同病院に帰属するため、情報や収益が地域外に流出しない仕組みとなっている。対象は4歳以上で外科的処置を必要としない患者。けいれんや呼吸困難など重篤な症状の場合は救急車を要請する。主に発熱患者を想定。
5. 心肺蘇生を望まない傷病者への対応について
- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を受けている患者が、誤って救急車を要請した際のプロトコル発動実績について報告。心肺蘇生を中止し不搬送とするプロトコルが最後まで完了しない理由の59%が「かかりつけ医側の事情（現場に行けない）」だった。市民、介護施設職員、かかりつけ医に、このプロトコルの情報共有が今後の課題。
6. 日本医師会JMAT研修統括編の報告
参加された下松医師会 堤医師からの報告
7. JMAT山口の活動と研修会案内
- ・平成26年度からJMAT山口の事前登録者名簿を作成・更新している。
 - ・第2回災害医療研修会を11月29日（土）に山口県総合保健会館で開催予定。
8. ACLS普及啓発事業
ACLS講習会開催時の人形レンタル費用助成事業を今年度も継続。県医師会員が所属する医療機関からの申請に基づき、上限15万円まで助成する。
9. AED普及啓発事業
AEDトレーナーおよび訓練用人形の貸し出し事業継続。

10. その他

・県内の救急医療体制の現状と課題

下関市から、医師だけでなく一次救急を担う看護師や医療事務の確保が極めて困難な状況が報告された。年末年始には一つの病院に100人以上の患者が殺到し、その負担からスタッフが離職。結果として、まだ診療を続けられる医師が10月に閉院する事態に至っている。

県内の一次救急は崩壊しかけており、昭和52年に構築された一次、二次、三次という救急医療体制が、約50年を経て限界に達している。特に高齢者救急の増加が大きな負担となっており、高齢者の救急を現行体制から切り離し、地域包括的な形で新たな枠組みを設ける構想が進行中である。これにより、救命救急センターへの負担を軽減することを目指す。

以上を報告した。

II. 協議・承認事項

1. テガダムP筋注シリンジ250の今後の発注について

(前田理事)

未使用につき発注は次年度から中止することとした

以上を協議・承認した。

令和7年度9月光市医師会定例理事会

日時 令和7年9月9日（火）午後7時00分より午後8時00分

場所 光商工会館 光市医師会 事務局

出席 井上祐介会長、廣田 修副会長、田村健司理事、秋吉宏規理事、
北川博之理事、河内山敬二理事、谷川幸治理事、守友康則監事、
藤田敏明監事、前田一彦理事

欠席 松島寛理事

議題：

I. 報告事項

1. 周南地域メディカルコントロール協議会

(8/7 前田理事)

1. 令和6年度山口県救急業務高度化推進協議会・幹事会合同会議結果報告

●傷病者の搬送および傷病者の受け入れの実施に関する基準の一部改正について

各消防官内の実情を踏まえ、各医療機関における傷病者搬送、受け入れ基準の一部を改正。周南地区は該当無し。

●選定療養費徴収状況調査

県内62救急告示病院のうち、16病院が初診選定療養費を徴収。紹介状がない場合、救急外来ウォークインや救急搬送で入院不要の場合などに徴収されており、

徴収額は7,700円、または7,000円。

●救急現場における心肺蘇生を望まない傷病者への対応

プロトコルの運用開始から2024年11月で3年。関係者が救急要請をしないための有効な方策について、救急隊から意見を収集し医師会で周知予定。

●マイナンバーカード活用の救急業務実証事業（マイナ救急）

救急隊が、傷病者のマイナ保険証を活用し、オンライン資格確認等システムを介して医療情報等を閲覧できるシステムの構築を目指す事業。受診歴、診療情報、薬剤情報などを閲覧可能。

2025年10月から全国全消防本部で実証事業開始。山口県内でも全消防本部が参加。

2. 令和6年度事業報告および令和7年度事業計画案について

●令和6年度事業報告

定例作業部会、MC協議会、症例検討・事後検証会、病院前救護活動の標準化（PEMEC）

研修への参加、救急現場における精神的問題初期対応（PEEC）研修への参加、等の報告。

●令和7年度事業計画案

定例作業部会・協議会、症例検討・事後検証会、PEMEC参加、アナフィラキシー実証事業への参加、を予定。

*アナフィラキシー実証事業

自己注射可能な患者以外に、救急救命士が医師指示のもとエピペン投与を行う実証事業。

3. 令和8年度周南地域MC協議会「PEMEC」実施計画について

令和8年度から地域MC協議会主催でPEMEC（内因性傷病者に対する病院前救護活動の標準化コース）を開催する予定。課題（ディレクター・コーディネーター資格者不在のため外部から招聘）等が説明され協議、承認された。

4. 救急搬送の現状報告

●令和5年度・6年度の出動件数、搬送人数、年齢階層別割合、現場到着・病院収容平均所要時間、病院受入紹介回数等のデータを報告。

●転院搬送における救急車の適正利用推進通知

総務省消防庁・厚生労働省から転院搬送の救急車適正利用推進通知が発出。平成28年にも同様の通知があり、今回はその追加改定。令和6年度の検討会報告書では、転院時に消防機関の救急車利用割合が高く、全国の半数近くの消防本部で転院搬送が救急業務をひっ迫していると認識されている（山口県内では、病院間搬送が占める割合は11～12%程度で、それほどひっ迫感はないとのこと）。

消防機関・医療機関双方で転院搬送の共通認識と適正利用のためのルールづくりが必要。県内半数の地域では既にガイドラインやマニュアルが運用されている。周南地域メディカルコントロール協議会でも、作業部会で当地域の実情を踏まえたガイドライン・マニュアルを作成し、2026年度の協議会で諮る予定。

2. 周南医療圏地域医療構想調整会議 (8/28 井上会長)

\$新たな地域医療構想に関する国の検討状況 資料1-③

\$令和6年病床機能報告

県全体 高度急性期病床が12床、急性期病床が220床、慢性期病床が349床減少するなど、県全体の病床数は前年度から437床減少している。令和6年と比較して、2025年には病床機能の転換がさらに進み、回復期病床は171床増加する見込みとなっている。

必要病床数

高度急性期 1323 急性期 4508 回復期 4674 慢性期 5384 合計 15889

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	合計
R5現状	1868	6579	3559	6645	575	19226
R6現状	1856	6359	3644	6296	634	18789
2025見込	1868	6230	3815	6125		18038
	10.4%	34.5%	21.1%	34.0%		
R6-R5	-12	-220	+85	-349	+59	-437
2025-R6	+12	-129	+171	-171		-751

周南保健医療圏

必要病床数

高度急性期 223 急性期 745 回復期 842 慢性期 737 合計 2547

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	合計
R5現状	463	814	760	1051	22	3110
R6現状	463	772	800	1051	7	3093
2025見込	463	754	826	1022		3065
	15.1%	24.6%	26.9%	33.3%		
R6-R5	0	-42	+40	0	-15	-17
2025-R6	0	-18	+26	-29		-28

\$地域医療構想の進捗状況の検証について 資料3-1 ③④⑤⑥

\$かかりつけ医機能報告制度

①制度の概要

下記3項目の変化が制度の必要性の背景となっている。

人口動態（85歳以上人口を中心に高齢者が増加、現役世代が減少）

医療需要（入院患者数:2040年ころにピーク 死亡数:2040年まで増加傾向、外来患者数:2025年ころにピークを迎え65歳以上の割合が増加、在宅患者数は:040年以降にピークを迎え医療・介護の複合ニーズを持つ者が一層増加）

マンパワー（2040年には医療・福祉職種の人材が現在より多く必要、60歳以上の医師の割合も増加）

②報告制度の整備が目指すもの

地域で必要となる時間外診療体制、在宅医療、入退院支援、などのかかりつけ医機能の確保が不可欠である。報告制度により医療機関におけるかかりつけ医機能の取り組み状況、地域におけるかかりつけ医機能の確保状況、不足するかかりつけ医機能の協議に活用し対策を検討する。

③かかりつけ機能が発揮される制度整備（資料4②）

*かかりつけ医機能報告の具体的な運用や各報告事項の詳細については、令和7年度中に「かかりつけ医機能報告マニュアル（仮称）」を厚生労働省より発出予定

3. 郡市医師会妊産婦・乳幼児保健担当理事協議会・関係者合同会議（9/4 北川理事）

1) やまぐち版ネウボラについて

- ・ネウボラ:フィンランドの「ネウボラ:妊産婦、子育ての支援を地域として切れ目なく支援していく体制」をアレンジして子ども家庭センターを中心として全県下で推進する取り組み
- ・現在100カ所が活動しており、県ホームページにも紹介されています。

2) 子宮頸癌予防ワクチン接種について

- ・現時点では副反応の報告は上がっていない
- ・定期接種は1回目は94%が受けエイルが3回目接種まで行っているものは27%
- ・キャッチアップ接種は3回目まで受けているものは23.7%
- ・今後は定期接種の習慣化に向けた啓発活動を
- ・ワクチン不足のためキャッチアップ接種できなかったものがあるため、R73月までに接種を開始したものはR7年度中であれば公費で実施

3) 麻疹・風疹予防接種状況の報告

- ・R6年度は99.3%が第二期まで終了、光市は93.8%

4) R8年度 標準的な妊婦健診委託金額について 昨年度の変更なしで了解された

5) R8年度 乳幼児健康診査の参考単価（案）

- ・乳児・1歳6か月・3歳共に6040円 昨年度の変更なしで了解された
他県に比べて安いとの指摘がされた

6) 新生児聴覚スクリーニング検査事業 R8年度全額公費負担（案）

自動聴性脳幹反応検査 (AABR) 5500円

耳音響放射肩鎖 (OAE) 2750円

- ・できる限りAABRに移行するように料金設定を変えている
- ・静岡では自動ABR機器の購入に対して助成を行っていることが紹介された。

7) 先天梅毒児の増加に関する報告

梅田病院では、公費負担の妊娠前半期検査に加えて、自費ではあるが妊娠37週に再検査を行っている。

8) 4種混合ワクチン販売中止に伴う留意事項

- ・第1期定期予防接種を終えていないものは、ヘモフィルスb型ワクチンの回数によらず、5種混合ワクチンを接種可能

4種 (ジフテリア、百日咳、ポリオ、破傷風) 5種 (+Hib)

9) 1か月健診・5歳児健診について

- ・現在、5歳児健診に対して補助が出ているのは、山口県では1市町村のみで5%の児が対象。
- ・5歳児健診を勧める方向で国としては動いているが (R8年度で6割以上の目標)、必要な医師の確保が困難

二段階方式 (園医や巡回医師による抽出など) も考慮

10) R7 高齢者インフルエンザ予防接種について

- ・令和7年10月1日～令和8年2月28日まで
- ・上関町を除き4950円 (自己負担1490円)
- ・県内統一様式の予診票あり

11) R7 新型コロナワクチン予防接種について

- ・令和7年10月1日～令和8年2月28日まで
- ・15,600円 (自己負担4,680円) 予診のみは1,397円
- ・県内統一様式の予診票あり

12) R8 個別接種標準料金 (案)

変更点のみ (詳細は光医師会に)

- ・BCG 6500円 ⇒ 7100円
- ・ヒブ 4435円 ⇒ 4492円
- ・成人用肺炎球菌ワクチン
4304円 ⇒ 4860円
- ・B型肝炎ワクチン
0.5ml 2236円 ⇒ 2540円
0.25ml 2014円 ⇒ 2290円

13) 児童虐待等に関する研修会

- ・児童虐待の発生予防に関する研修会 11月30日 10:00～ 県医師会6F
- ・BEAMS 12月8日 19:00 オンラインにて
- ・母子保健領域における心理職との連携を図るための研修会

R8 3月22日 10:00～ 県医師会6F

4. 退会会員

会員二名の死亡退会の報告

以上を報告した

II. 協議・承認事項

1. 入会会員について

B会員 平田真由美

A会員 高橋智聡

2. 休日診療所の薬品について

ロートエキス散、サンリズム、ジクロフェナック、オセルタミビル、ジアゼパム錠、ボスミン注射液の使用が非常に少ないため、新たに発注を中止とした

以上を協議・承認した

月例会報告

令和7年9月30日（火）

1. 10月1日から始まるマイナ救急について

7月休日診療所当番医報告

7月		内科系	外科系	
	6(日)	12	10	22
13(日)	12	5	17	
20(日)	14	8	22	
21(月)	8	4	12	
27(日)	12	8	20	
計	58	35	93	

9月休日診療所当番医報告

9月		内科系	外科系	
	7(日)	19	1	20
14(日)	13	8	21	
15(月)	28	11	39	
21(日)	4	4	8	
23(火)	19	3	22	
28(日)	11	4	15	
計	94	31	125	

8月休日診療所当番医報告

8月		内科系	外科系	
	3(日)	12	4	16
10(日)	11	9	20	
11(月)	23	11	34	
14(木)	20	2	22	
15(金)	26	14	40	
17(日)	23	6	29	
24(日)	16	5	21	
31(日)	14	2	16	
計	145	53	198	

☆ これからの行事予定 ☆

10月	14日(火)	理事会	12月	4日(木)	忘年会
	28日(火)	月例会		9日(火)	理事会
11月	11日(火)	理事会			
	25日(火)	月例会			

緑友会ゴルフコンペ成績

令和7年5月6日
周南カントリークラブ

順位	名 前	OUT	IN	GR	HDCP	NET
優勝	高島 光洋	48	49	97	17	80
準優勝	小田 達郎	51	56	107	24	83
3	森本 博士	46	45	91	4	87
4	吉川 真	53	50	103	16	87
5	佃 浩一郎	46	55	101	14	87
6	南 典文	58	49	107	19	88
7	兼清 光帆子	56	62	118	28	90
8	兼清 照久	56	49	105	11	94
9	宮本 寿太郎	55	49	104	8	96
10	前田 昇一	57	56	113	14	99
11	赤崎 信正	54	53	107	7	100

NP ②佃 ⑥吉川 ⑬兼清(照) ⑰高島
DC ⑧佃 ⑮赤崎
ドラ短 前田

● あとがき ●

十月に入ると突然に、朝晩が涼しくなり、秋の気配を感じられるようになりました。

一方で、最近のニュースでは、全国の大学病院の多くが人件費高騰で赤字との報道があり、光市でも計17億の赤字が発表ありました。

先行きは依然として不透明ですが、地域で支え合い、安心して暮らせる医療でありたいものです。

(K.T)

発行所 光市医師会
TEL (0833) 72-2234
発行日 令和7年11月10日
発行者 井上 祐介
編集者 広報担当
印刷所 光市光井一丁目 15 番 20 号
中村印刷株式会社